

地域を支える力と生産性向上のこれから

株式会社高木組代表取締役社長
(北海道生産性本部理事・函館地区支部長)

中島 直登（なかじま・なおと）氏

《略歴》

1958年8月函館市生まれ。1977年3月北海道函館中部高等学校卒業。1981年3月日本大学理工学部建築学科卒業。1981年4月株式会社高木組入社。2016年1月同執行役員建築部長。2019年1月同取締役建築部長。2025年4月同代表取締役社長就任、現在に至る。



人口減少や担い手不足が進む中、地域に根差す企業の役割が、いま、改めて問われています。1902（明治35）年の創業以来、株式会社高木組は函館・道南地域とともに歩み、本年で124年を迎えました。港町・函館の発展と時代の変遷の中、地域の皆様に支えられ、今日まで事業を継続できておりますことに、改めて心より感謝申し上げます。

昨年社長に就任し、あわせて北海道生産性本部函館地区の支部長を拝命いたしました。長い歴史を有する企業の経営は、単なる事業の継承にとどまらず、先人が築いた信用や地域とのつながりを次世代へ引き継ぐ責任を伴うものと実感しています。

函館・道南地域は、豊かな自然や歴史、文化に恵まれた魅力ある地域である一方、人口減少や少子高齢化、人手不足といった課題が進行し、地域経済は大きな転換期を迎えています。こうした中で、地域企業の役割はこれまで以上に重要性を増しています。

建設業は、道路や橋梁、港湾、公共施設といった社会基盤の整備に加え、災害復旧や除雪を通じて地域の安全・安心を支える「地域の守り手」としての役割を担っています。特に北海道の厳しい自然環境において、その重要性は今後さらに高まるものと認識しています。

一方で、担い手不足や技術継承、資材価格の高騰、働き方改革への対応など、建設業を取り巻く環境は大きく変化しており、従来の延長線上の対応だけでは乗り越えることが難しい局面にあります。

このような状況において、鍵となるのが「生産性向上」です。これは単なる効率化やコスト削減ではなく、限られた人材や資源の中でいかに価値を高めるかという視点であり、経営の質そのものを問い直す取り組み

みです。その成果は、働く人の安心ややりがい、さらには地域社会の持続的発展へとつながるものと考えています。

近年、ICT 建機による施工やドローン測量、三次元データの活用など、新技術の導入が進み、現場の働き方や環境も着実に変わりつつあります。これらの取り組みは省力化にとどまらず、安全性の向上や働きやすさの改善にも寄与し、次世代の担い手確保にもつながるものです。

しかし、どれほど技術が進歩しても、最後に現場を支えるのは「人」の力です。経験に裏打ちされた判断力や信頼関係、地域を支える責任感、技術だけでは補うことができません。だからこそ、人材育成と働きやすい職場環境づくりに継続して取り組み、技術と誇りを次世代へ確実に継承していくことが私たちの使命であると考えています。

こうした課題は建設業に限らず、あらゆる企業に共通するものです。限られた人材の中で価値を生み出し、それを次世代へとつないでいく。そのためには、自らの在り方を問い続ける姿勢が、これからの時代において一層重要になるものと考えます。

創業以来、地域に育てられてきた企業として、これからも必要とされ続ける存在であるために、時代の変化に真摯に向き合いながら、生産性向上の取り組みを着実に進めてまいります。人の力を礎に、地域の未来を支える企業であり続けるため、挑戦を重ね、着実に歩み続けてまいります。